

# DEBUT 首長

茨城県潮来市長 原 浩道氏



## 震災の液状化対策 迅速に 観光ルートづくり、千葉と連携

**茨城県潮来市** 茨城県東南部にあり、霞ヶ浦や北浦などに囲まれた水郷として知られる。6月が見ごろの「水郷潮来あやめまつり」には多くの観光客が訪れる。2001年市制施行。人口は約2万9100人。サッカーJリーグ・鹿島アントラーズのホームタウンの1つでもある。

——東日本大震災で被災した日の出地区の液状化対策工事で、市長就任後、「復興工事推進事務所」を開設した。狙いは。

震災復興交付金は2015年度末が期限。国には同交付金制度の継続を要望しているが、市はあくまで15年度内に工事を完成させることを目標にしている。それにはさまざまな問題をスピーディーに解決することが必要。現地に事務所を置いて窓口機能を一本化、住民の相談や事業の監理などをより円滑、迅速にできるようにした。県の技術者1人を招き建設部長に任命、事務所所長を兼務して陣頭指揮してもらっている。ほかに専門性の高い市職員6人を配置した。

——3月の所信表明で広域連携の強化により国際観光都市を目指すことを約束した。

千葉県を含む周辺自治体と連携して観光ルートをつくり外国人旅行者を呼び込みたい。多くの観光客を集める「水郷潮来あやめまつり」（5～6月）だけでなく通年の魅力づくりが重要と考える。成田空港、茨城空港の中間の地で市内の宿泊施設は約850室と隣接自治体に比べ優位だ。もっと外国人旅行者に泊まってもらい夏祭りなども楽しんでほしい。また地方の免税店制度も導入したい。

このほど中国・重慶市の女性企業家らの一行が市内のホテルに泊まりイチゴハウスや酒蔵などを視察した。こうしたことが国際観光都市への飛躍へ向けた一つのきっかけになると期待している。

また近接する鹿島港は、ばら積み貨物の拠点として重点投資する「国際バルク戦略港湾」に選定されている。穀物基地などが整備され、東京から商談に来る人も増えるはずだ。船員などの滞在需要もつかんでいきたい。

——人口減少に歯止めをかけるため「すみたいまち潮来」を掲げている。具体的な

はら・ひろみち 1962年茨城県潮来町（現潮来市）生まれ。84年日大法卒、コスジャパン入社。94年からレストラン、うどん店の経営に携わり、2008年から潮来市議を2期務める。今年2月、潮来市長に初当選。趣味は釣り、サッカー観戦。座右の銘は「陰徳」。

**施策は。**

まず周辺の自治体に比べて不公平が指摘されている負の部分の解消をしたい。周辺市のなかで唯一課税している都市計画税の廃止をできるだけ早い時期に実現したい。住民の希望に応じて走る乗り合いタクシー「デマンドタクシー」や市内循環バスなどの交通手段の整備が遅れている。上下水道の料金も割高だ。まず周辺自治体並みにすることから始めたい。

——行財政改革を訴えるため「市長給与の30%削減」を公約通り実施する。

人口減少、高齢化社会の進展などで市の財政環境は今後ますます厳しさを増す。定例市議会に提出した市長給与30%削減の条例改正は可決した。任期4年で約1800万円減らすことになる。市長自ら範を示すことで職員一人ひとりに意識改革を促したい。

（聞き手は

水戸支局長 安池 直人）